

湯河原中学校給食検討委員会（第6回） 会議概要

- 1 日時 令和4年2月15日（火）
- 2 場所 防災コミュニティセンター 1階大会議室
- 3 委員 中学校校長、小学校長の代表、中学校PTA会長、中学校PTA副会長、
中学校PTA副会長・中学校教頭、小学校PTA会長代表
小学校栄養教諭、中学校養護教諭、参事兼学校教育課長

案件（1）

湯河原中学校給食施設整備について

事務局より

給食実施の経緯

湯河原中学校の給食導入実施については、平成26年から検討協議し、令和2年5月には、給食施設等調査業務委託が完了し、湯河原中学校地内に給食施設等を整備する自校給食方式を行う計画で令和2年12月に給食施設等基本設計業務委託に着手しました。

しかし、受託業者より課題が提示され、課題を整理するために変更契約を締結し、令和4年2月末日に報告書が提出される予定です。

給食施設等調査業務・調査報告概要

計画食数を550食とし、テニスコート西側敷地、駐車場、中庭、グラウンド等に整備する10案が出されました。その中で、テニスコート西側敷地に整備する案（A-2）が最も可能性が高いと報告されました。概算施設工事費は、264,000千円（消費税抜き）給食設備整備費が80,000千円（消費税抜き）、合計344,000千円（消費税抜き）です。ランニングコストは34,000千円でした。

給食施設等基本設計業務報告概要

委託業者より提示された課題解決のため、既存校舎から6メートル離す別棟建築とし、渡り廊下で接続する計画です。調査業務報告では鉄骨造での計画でしたが、基本設計では、施工性、耐久性、耐火・耐風・耐震性、防音性、経済性に優れた鉄筋コンクリート造の計画としました。延床面積524平方メートル、改修面積685.9平方メートルです。

概算整備事業

基本設計の概算工事費は797,451円、調査業務時の概算工事費は290,048千円で、507,403千円の増となっています。給食設備整備費についても、80,630千円から113,404千円になり、32,747千円の増額になりました。

今後の課題

中学校敷地内に給食施設を整備する方向で調査検討をしてきましたが、新築面積、改修面積が増加したことにより、事業費が約9億円になり、当初予定事業費から大幅に増加しました。この状況をお伝えし、委員の皆さんの率直なご意見をお聞きしたいと思います。

質問・意見等

委員

「この事業費になるとこのまま進めていくことは、町の予算的に厳しいということなのでしょうか？」

委員

「金額のことはわからないのですが、資料の今後の課題を見ると、今まで検討してきたけれど、校地内に給食を整備する計画は無くなる可能性もあるということですか？」

委員長

「9億円という金額が町の予算として支出可能なのか、これまで検討してきたが、給食整備の計画自体が無くなるということも含め議論してよいのかという2つの質問です。」

事務局

「厳しい金額ではありますが、皆さんが必要な金額であるということでしたら、町に要望はしたいと考えています。また、資料の表現が計画を中止したいと、とらえられてしまったなら事務局は反省しなければいけないところです。ただ、金額が膨れあがってしまいましたので、色々な会議で協議・検討したいということです。」

委員

「給食検討委員会の中で、ご意見をいただいて方向性を出したいということです。調査報告の増築計画では、現行法の規制を受けて大改修になってしまうということで再考し、既存校舎と分離した整備で検討してきました。それでも、図の4に示されたところ、延焼の恐れのある部分、既存校舎の窓を防火設備に交換するなど改修が必要になりました。予算金額が大幅に増えてしまったので、改めて給食検討委員さんの意見を伺い、給食を進めるか、再度検討するのか、集約していただき、教育委員会定例会や教育総合会議等に報告したいと考えています。」

委員長

「方向性が定まる自信はありません。第6回の給食検討委員会ではこういう御意見が出されました、ということでもいいですか。自由に意見を述べる場でいいですか。」

委員

「いいです。この場ですぐには考えられないということでしたら、再度、お集まりいただき、考えた上でこのまま給食を進めるか、再検討するのがよいか討議していただいてもいいです。給食検討委員会としての意見をいただきたいです。」

委員

「湯河原町は中学校給食を自校方式で行うものと思って今まで検討を続けてきたつもりですが、今後、検討する課題は、自校方式で給食を行うのかどうか、給食をするのか、お弁当を続けるかですか？」

委員

「自校給食方式で給食をする方向で出発し、基本設計までできました。ただ、調査報告では3億7千万円位の予算で、教育委員会や議会の下承も得られ進めてきましたが、詳細に検討したら9億円になってしまいました。このまま進める、又は、例えば、再度検討するなど、給食検討委員会の委員の意見を伺いたいということです。」

委員

「児童生徒の数が減っていく中、中学だけの給食に9億円の予算をかけていいのか、中学校に中学校だけの給食を作るより3校ある小学校で（中学校の給食を）作れないのか、そもそも、小学校の数はこのままでいくのか、どこかが一緒にならないのか等は保護者の中でも話題にあがります。9億円かかっても給食施設を作ってくれとか、9億円かけて中学校に給食施設を作ったら、今後は小学校の給食もそこで作るのかとか、母親としては、どんな意見を言えばいいのかわからないです。ただここまで話を重ねてきて中学校の給食がなくなってしまうこともあるのでしょうか。」

委員

「ここまでくる中で、アンケート調査を3回実施し、自校方式を進めるという方向性は出ています。それを踏まえてここまで進めてきました。基本設計で9億円という金額が提示されましたが、このまま進める、又は、例えば、もう一度検討し直すという意見もありますので、率直なご意見を頂ければと思っています。」

委員長

「保護者としての意見、町民としての意見も大切だと思います。教職員として、栄養士としての意見も、それぞれも自由に言っていていいと思います。」

委員

「給食検討委員会の中で作りましょうと決定すれば、給食検討委員会の意見は意見として通しますが、その意見が全て反映されるものではないことはご了承ください。」

委員長

「自校給食についてのアンケートが来れば、それがいいとみんな答えますよ、ただそれをするには、9億円かかりますよ、みなさん毎月1万円税金をプラスして払ってください、となったら、また状況は違ってくると思います。アンケートをとったときには、9億円という金額は全く示されていないわけです。例えばパブリックコメントなどは考えていないのですか。アンケートばかりとってものはと思いますが。」

委員

「3回目のアンケートをとったときに、アンケートばかりとって、全然（給食が）できないという厳しい意見をいただいていたと記憶しています。もう一度アンケートをとるのは難しいと思います。」

「今回、法律も含めて、詳細に設計をし、金額が出たのは初めてです。前に進んだことは確かです。」

委員

「9億円と聞くとびっくりします。そもそも何故、3億が9億になるのというのが素朴な疑問なのと、もう一度検討し直すというときに、事務局としてはどのような代案をお持ちでしょうか。」

事務局

「事務局としての意見ではないですが、別の敷地で検討するとか、学校の再編のときには中学校給食もあわせて行うけれど、それまではデリバリー式の給食でつなぐなどは想定しまし

た。」

委員長

「可能かどうかはわかりませんが、湯河原小学校、吉浜小学校はかつて、4クラス以上あったけれど、今は2クラスずつです。単純に、12クラス分のキャパシティがありますよね。衛生的なこともあります。それを配送することはできないのでしょうか。素人考えかもしれませんが、それなら9億円はかからないのではないのでしょうか。」

事務局

「それは、親子方式というものですが、給食施設等業務委託の中でも検討しました。まず、吉浜小学校は通路が狭い為、(搬送車・工事車両の進入困難) 難しいとされました。湯河原小学校は給食を作るだけなら可能かもしれませんが、少なくとも、搬出口を設置するスペースが必要で増改築となりますが、そのスペースはありません。また、その増改築のときに小学校の給食はストップすることになります。」

委員

「費用的には、自校給食方式よりは低い予算になりますが、スペースの面で厳しいと考えられます。そういった検討も踏まえて自校給食方式の方向で進めてきたわけです。」

委員長

「3億円が9億円に跳ね上がった原因は何ですか。」

事務局

「改修面積が増えてしまったということが大きいです。」

委員

「4ページの資料をご覧ください。水色の部分が給食室ですが、赤い線で描かれたものが建築基準法による延焼のおそれのあるところ。内側が1階、外側が2階以上の延焼の恐れのあるところですが、この部分は耐火窓、耐火フレーム等に変えなければいけないということで改修面積が増えています。また、③学年室の部分ですが、隣にエレベーターを設置し、配膳室(ワゴン室)を作ることで、学年室の方にも影響が及ぶということで、ここも改修面積に入ってしまう。ということで改修面積が増えてしまったので、工事費が増えました。」

1枚目の給食施設整備費をみてください。令和2年の調査業務時の1平方メートル当たりの単価は49万円程度ですが、今回の基本設計では71万円、改修金額の単価も40万円だったものが、50万円になっています。1番は面積ですが、単価も上がっているということもあります。」

委員

「アンケートをとれば、忙しい保護者にとっては負担軽減になるので、給食がいいと答えます。子どもは弁当がいいという意見も多いです。ただ実際は、毎日、コンビニ弁当の子もいますし、栄養が偏るという問題もあります。私自身はお弁当を作ってあげたいので給食を必用としますが、給食にするという前提で動いていると思っていました。そもそも町が給食を進めるという前提がアンケート結果によるものなのか、子どもの栄養、健康を考えてのものなのかにもよります。子どもの健康を考えて、お金がかかっても給食を進めたいというこ

とならわかります。一部でしょうが、おにぎりやパンだけで昼食を済ませているのが現状なら、栄養を考えたお弁当を注文を受けるということも考えられます。町のお弁当業者さんの活性化にもつながります。」

事務局

「アンケートの前に完全給食を求める1846名の要望書が、町長、教育長、議長に提出されています。」

委員

「それは給食を求める方からの署名なんでしょうね。全ての保護者の総意ではないですね。子どもにお弁当を作るのが生きがいだという親もいらっしゃいます。難しいですね。中学校はずっとあの場所にこの先もあり続けるのでしょうか。」

委員

「それを議論していると給食がいつまでも進まないということで、給食を先行して始めています。先ほどのアンケートですが、全体の82.5%が賛成で、保護者にいたっては93.9%が賛成、児童生徒の賛成は57.8%でした。」

委員

「町として、ずっとそこに中学校を運営していくのであれば、給食室を建ててもいいのかなとは思いますが、9億円かけて作るというのであれば、そこも併せて考えていくべきかなと思います。」

委員

「1846名の署名ということですが、湯河原町民の7～8%の意見だと思うのです。それで、9億円を動かしていいのかという視点も大事なかなと思います。」

委員

「9億に驚いています。湯河原町で「お弁当の日」の取組を続けていますが、作ってくれる人に感謝の気持ちを持ったり、成長を感じる良い取組と感じています。給食にするのであれば、また違う方法を考えていくのもありかと思えます。子ども達に良い形で、給食なのか、デリバリーがいいのかわからないですけど、提供してあげたいです。」

委員

「本当に9億円かかるのか、価格を下げる工夫ができるのか、550食で検討するのが妥当なのか等も知りたいです。ここに至るまで、署名やアンケート調査などもして検討を重ねてきているのに、これだけの人数で結論づける、価格が高いので再検討しようという意見にまとめてしまうのは申し訳ないかなと思います。中学校に在籍するのは3年間だけなので、通り過ぎてしまえば関係ないということになるので、人数的には増えないと思います。それでも長年要望されてきた方を無視するわけにはいかないし、この先、建築費用は上がっていくはずなので、早めに考えた方がいいのかなと思います。どうしても施設を整備するのであれば、お金はかかります。その金額の高い安いについて、ここで論ずるのは難しいです。」

委員

「設計業者からはこれ以上かからないと言われていています。実施設計になって不要なものを切っていけば、価格は下がる可能性はあります。前回の調査業務委託では、どの場所に整備す

るのが可能性が高いかを検討するもので、法律等は調べていないのです。食数等を減らして検討するという事は考えられます。」

事務局

「平成31年（令和元年）竣工の茅ヶ崎市今宿小学校の給食施設を12月に見学させていただきました。小学校ですが、550食の施設です。建築費は5億8千万円です。」

委員長

「9億円がもう少し下がる可能性はあるということですね。給食検討委員会としては、9億円という金額が気になるということは皆さんの総意だと思います。」

自分の立場で話させていただくと、9億円あれば、もっと他に使えるのではないかと思います。具体的に言うと、本校では校内支援室があります。教室には行けないけれど、支援教室なら登校できるお子さんをセーフティネットとして見ているのですが、専任の教員がいるわけではないので、色々な職員が入れ替わり立ち代わり対応しています。そこに1日8時間専門に対応できる人がいたら、仮に時給2500円で年間200日いていただけたら、年間400万円しかかからないのです。継続的にその方にみていただけたら年間何人の子どもが救われるのかと考えます。もちろん、不登校と食育、栄養を同程度にみることはできないのですが、町のお金を使うということを考えてときに費用対効果というものも広く考えてもいいのかなと思います。」

委員

「なので、この金額ですが、550食でないと給食は生徒数的に賄えないものですか。例えば、この建物を小さくすればそれなりに金額は安くなると思います。また、建物が小さくなれば、延焼ラインの改修が必要になる部分も少なくなる可能性はありませんか。」

委員

「延焼ラインについては、資料4ページを見てください。この図面でいうと、給食室がもっと下（海側）に下がると、緑色の校舎の延焼ラインから外れる可能性は低いかもしれませんが、あるかもしれません。」

委員

「例えば、この建物は左右に長い建物になっていますが、これを縦に長い形にしたらどうですか。」

事務局

「給食室の下側はテニスコートがあります。」

委員

「設計の中で、安くできるプランを現在お願いしている業者さんにいろいろ考えていただくという提案はしたいです。」

委員長

「基本設計をもう一度していただくということは可能ですか。」

委員

「時間はかかってしまいます。来年度に予算を要望してということになります。」

委員

「実施設計では、例えば、延焼ラインにかからない様に、建築面積を小さくして計画してもらおうということはできますか。」

委員

「実施設計というのは、工事を行う前提でします。いろいろ考えながら実施設計を実施してやっぱりやめましょうということとはできないですね。実施設計はかなりの金額もかかります。」

事務局

「1千万円以上かかります。」

委員

「今までに、ここまで検討してきたことは無かったので、どの位費用がかかるのかわかりました。」

委員長

「具体的な数字が出たことで、こうした議論もできるので、必要な基本設計だったと思います。」

委員

「校舎の改修金額が大きいですね。新築の部分と大差ないです。」

委員長

「改修部分を減らすため、新築部分を減らさざるを得ないということですか。」

委員

「学年室全体が改修面積に含まれているので改修面積を大きくしています。エレベーター設置は大掛かりな工事になるので、学年室までその影響が出るということですが、そこまで改修が及ばない可能性もあります。」

委員

「現在、(湯河原小学校と吉浜小学校)の小学校は2クラスずつです。この計画がこのまま進むとしても実際に給食が始まるまでは何年後になるのでしょうか。3年～5年はかかりますか。そのとき子どもの数はもっと減っていると思います。食数をもっと減らした計画でいいのではないですか。」

委員長

「例えば、400食で、やはり基本設計をやり直すのでしょうか。」

委員

「食数が減れば、面積は減るのでしょうか。」

事務局

「劇的にはならないですが減ります。そもそも基本設計は600食をマックスで考えています。」

委員

「ワゴンの数や収納の保管庫の数も減らせますね。」

委員

「他の土地から湯河原に若い方がいらして、中学校に給食ある、ないでは違って来るかもし

れません。そんなことも頭の隅においてもらえたらと思います。」

委員

「あとは、自校方式が難しいのであれば、他の案、親子方式であったり、デリバリーであったりはどうですか。」

委員

「デリバリー方式はあまり評判がよくないようです。」

委員

「お弁当と給食を選択にするということは難しいですか。」

委員長

「デリバリーだと、選択はできます。過去に、希望者に注文をとって配る「業者弁当」をしたことがあります。町内の料理屋さんに頼んでいましたが、数が少なくて採算が合わず無くなりました。15年前のことで、今の状況とは違うかもしれません。」

委員

「業者さんのお弁当の単価は、どのくらいだったのですか。」

委員長

「当時、400円位だったと思います。月ごとに頼んで担当が把握して発注、前払いでした。」

委員

「自分で作るより割高なのでしょうか。安ければ違うのでしょうか。」

委員

「実際、どの位、コンビニ等で買った弁当を持ってくる子がいるのでしょうか。」

委員

「自校方式、その他の方法も含め、再検討するという方向でよいでしょうか。」

長田委員

「検討委員会の方向性とまでは言えません。そういう意見もあったということです。」

青木委員

「親子方式にしたときのランニングコストは、ガソリン代とかまた別の経費もあります。」

報告事項（1）

湯河原中学校給食検討委員会会議録(第5回)について

事務局より

「前回の第5回の会議録です。ご覧いただき、お気づきの点がありましたらご連絡ください。今週中を目途にお願いします。」

報告事項（2）

その他

委員より

「次回の会議日程はあらためて事務局が調整していただけますか。」

事務局

「はい。ご連絡します。」